

党の総路線と毛沢東の軍事思想の

赤旗を高くかかげて勇往邁進しよう

林 彪

われわれの偉大な祖国——中華人民共和国は成立十周年をむかえた。中国人民解放軍の全指揮員、戦闘員は、全国人民とともにこの偉大な歴史的意義をもつ、全人民の祝日を熱烈に祝っている。

3 十年の歳月は、歴史の歩みからみるなら、ほんの一瞬にすぎない。しかし、はかならぬこの十年間に、われわれの国家は、新民主主義革命の勝利につづいて、またもや社会主義革命の偉大な勝利をおさめた。社会主義と資本主義という二つの道の闘いにおいて、社会主義は各方面で基本的に資本主義にうちかつた。数千年らしい階級搾取制度の歴史は、すでに基本的に終り

をつげた。人類の四分一をしめるわが国の六億五千万の人民は、社会主義に歩み入った。三年間の経済復興を経てのち、一九五三年から一九五七年までのあいだに、わが国は国民経済発展のための第一次五カ年計画を完遂し、わが国の社会主義的工業化の初歩的な基礎をきざした。一九五八年、毛沢東同志の発意によつて、党は大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線をさだめた。この総路線のかがやかしい光にみちびかれて、工農業生産と文化・教育事業の大躍進が展開され、それによつて、わが国は第二次五カ年計画の主な指標を、三年くりあげて完成することができるようになった。昨年の秋、二カ月たらずの期間に、全国の農村はめざましいスピードで人民公社化を實現した。それから一年もたぬうちに、人民公社はしつかりと足を地につけ、健全な発展の道を歩みはじめ、しかもその優越性を日ましにはつきりと発揮しつつある。わが国の社会主義建設の事業がこのように史上に前例のない高速度の発展をとげ、かがやかしい成果をおさめていることは、偉大な中国共産党と偉大な人民の指導者毛沢東同志の指導のもとでは、勤勉で勇敢な中国人民の歴史を創造する力と英知が限りないものであることを雄弁に物語っている。しか

しながら、帝国主義はかたときもわれわれにたいして破壊をおこなわないときはなく、たえずわれわれをくつがえそうと夢みている。わが国の建国後まもなく、アメリカ帝国主義は、朝鮮で侵略戦争をおこすと同時に、わが国の領土台湾を力づくで占領し、まず朝鮮を占領してからさらに誕生後まもない中華人民共和国を扼殺しようとした。その結果は、彼らが恥ずべき失敗をなめた。わが国の大躍進と人民公社を前にして、帝国主義者は腹の底からふるえおののき、驚愕のあまりなすすべを知らず、わが国にたいして悪辣きわまりない中傷と攻撃をあびせてきた。こんにち、彼らはまたもや恥ずべき失敗をなめた。中国の歴史の車輪は、あらゆる帝国主義と反動派の妨害と破壊を尻目に、「一日が二十年にも相当する」速度で、飛躍的な前進をつづけている！ 中国人民は強大となった！

過去の十年間に、国防戦線でも、社会主義建設のその他の戦線におけるとおなじく、偉大な成果をおさめている。中華人民共和国の成立後、中国人民解放軍は、すみやかに国民党反動軍の残余を一掃し、全中国大陸を解放した。中国人民志願軍は、朝鮮人民軍とともに、世界でナンバー・ワンの帝国主義の軍隊をうちやぶった。アメリカ帝国主義というこのハリコの虎は、

全世界人民のまえにその正体をさらけだした。わが軍は、沿岸諸島を解放し、祖国の辺境と海と空を守る闘いで、金門島の蔣介石軍に懲罰をくわえ、台湾解放を準備する戦いで、またチベットの反動勢力の叛乱平定で、祖国の人民からゆだねられた重任をりつぱにはたしてきた。国防前線と縦深戦略要地では、巨大な規模の現代的国防工事がすすめられているが、これによつてわが国は、比較的完全な体系をそなえた現代的な防禦施設をもつ国家となりつつある。軍隊そのものは、わが軍を優秀な現代化した革命軍隊にきずきあげよという党中央と毛沢東同志の正しい方針にみちびかれ、ソ連ならびに兄弟諸国の援助をうけて、わが建軍史上の新たな大転換をとげている。軍隊の技術装備は改善され、軍隊の指揮、編制、訓練、制度などに一連の革新がくわえられた。現在、わが軍は、すでに単一兵種の軍隊から諸兵種連合の軍隊に発展した。陸軍の各主要技術兵種がいちじるしく強化され、強大な空軍が創設され、海軍も相応の発展をとげている。わが軍の現代化の過程において、軍隊にたいする党の絶対的指導が固められ、軍民一致、將兵一致の光榮ある伝統が発揚され、各種の活動のなかで大衆路線がたがねがれた。偉大な整風運動をへて、党の社会主義建設の総路線と全国の大躍進に励まされながら、

軍隊工作も意気天をつく全面的な大躍進をとげた。われわれの国防力としては、政治的にしつかりした、現代的技術装備をもつ常備部隊のほかに、数億人を擁する民兵の隊伍が組織されている。この隊伍がある以上、帝國主義があえてわが国に攻撃をくわえてきたときには、ただちに全民皆兵を實行し、常備軍と呼応して、敵を全人民あげての戦いの火の海におちいらせることができる。わが軍は、軍じたいの建設に従事すると同時に、またつねづね国家建設や社会改革の仕事にも大規模に参加している。劉少奇同志は、党の第八期全国代表大会第二回会議で党中央を代表しておこなった政治報告のなかで、「人民解放軍は社会主義事業の守り手であり、また社会主義事業の建設者であります」①と指摘している。十年来、わが軍は、この光榮ある任務を忠実に遂行してきた。

十年来、われわれの国家は民主主義革命の徹底的な勝利から社会主義革命と社会主義建設に転ずる大変革のさなかにあつた。われわれの軍隊は、軍事上で単一兵種の軍隊から現代的な多兵種連合の軍隊に移行したが、これもまた一大飛躍である。こうした状況のもとで、軍隊建設のうえでの一連の重大な問題がわれわれの前に提起された。それは主に、軍隊の現代化の段階

でもやはり政治がいつさいを統率するということがあいかわらず、重要であるかどうかという問題である。具体的にいうなら、政治活動、思想工作の地位についての問題、軍人は国家の経済建設と大衆運動にたいしていかなる態度をとるべきかという問題、軍隊内部の関係をいかに正しく処理するか、また軍隊にたいする党の指導をいかにしてさらに強めるかという問題、これらはすべて軍隊建設の新しい段階でかならず解決しなければならぬ問題である。十年来、われわれはこれらの重要な問題をわりに適切に処理してきたからこそ、上述の成果と勝利をおさめたのである。建国十周年のこんにち、われわれが語りたいと思うのは、主にこの面の若干の体験である。

二

社会主義と共産主義を実現することは、わが軍の指揮員、戦闘員が長期にわたつてそのためにこそ勇敢に闘つてきたところの崇高な理想である。民主主義革命の段階にあつても、党はこれまで社会主義と共産主義の理想によつてみずからの軍隊を教育することをおこなつた

た。わが軍の大多数の同志は、民主主義革命の時期に断固として勇敢であつたばかりでなく、また社会主義革命の時期に入つても社会主義のために勇敢に闘う、社会主義の頑強な戦士であつた。しかし、かなりの数をしめる一部の同志は、社会主義にある種のあこがれをもち、またその実現を望みながらも、高度な社会主義の自覚にかけ、社会主義革命がはじまつたときには、彼らのうち一部のものの考えかたは往々まだ民主主義革命の段階にとどまつていた。すくなくともものは、社会主義革命の過程で、やつと社会主義革命の心がまえを一步一步すすめるという有様であつた。社会主義革命は、民主主義革命よりもずっと大きな幅と深みをもつ革命であつて、それはいかなる種類の搾取制度をもとりのぞき、生産手段の私有制をなくするものである。この革命の一つひとつの段どりはわが国の数億の人民の生活と思想にきわめて大きな影響をあたえるが、同時に社会におけるさまざまな思想動向もまたかならず直接、間接に軍隊内部に反映してくるにちがいない。革命軍人たるものは、もし社会主義革命についての十分な心がまえにかけ、真剣な自己改造をおこなうなら、社会主義革命のなかで確固たる立場をつらぬくことができないばかりか、また党の社会主義建設の総路線を自覚をもつて、ゆるぎなくつ

らぬくことも出来ようはずがない。これでは、社会主義が真に到来し、ブルジョアと小ブルジョアとの生産手段の私有制が真に終りを上げるときになつて、唐突な感じをうけ、ついには方向を見失つてしまうことになるだろう。これでは、ブルジョア思想の微菌がわが党とわが軍の抵抗力の弱いこうした部分の筋肉中にひろがり、わが党とわが軍にたいして腐蝕と分裂の作用をおこすことになり、われわれは、社会主義の実現のための闘いのなかで内部からの抵抗にあうことになるだろう。

われわれの軍隊の内部には、労働者階級とブルジョアとといった二つの対立する階級はけつして存在しない。しかし、労働者階級の思想とブルジョア思想との闘いは存在する。こうしたイデオロギーの闘いは、過渡期における社会主義と資本主義という二つの道の闘いの反映にはかならない。現在についていうなら、旧い社会経済制度の改造は基本的に完成されているとはいへ、まだ徹底的に完成されてはならず、社会経済制度は交つたとはいへ、ブルジョアと小ブルジョアの思想上、政治上の活動はなお存在し、その社会的基礎は狭まりつつあるとはいへ、なお一部の社会的基礎をもっている。ブルジョアと小生産者の習慣の力、これがとり

もなおさずブルジョア思想の社会的基礎である。それは一部の人びとのあいだにまだ市場をもつており、いつたん機会をうるや彼らはたちまち風波をおこし、蠢動しはじめる。人びとの頭腦のなかには、社会主義思想が陣地を占めているか、でなければ資本主義思想が陣地を占めているかである。したがつて、過渡期においては、プロレタリア思想を発揚し、ブルジョア思想を一掃する闘いは、終始一貫して軍隊建設における重要な課題である。わが軍のあらゆる活動、わが軍の現代化は、いずれもこうしたイデオロギーの闘いと切りはなしては考えられない。労働者階級とブルジョアとのこの政治上、思想上の闘争は、波のうねりのように、あるときは高く、あるときは低く、起伏をくりかえしながらつづけられて、今日にいたるもこの闘争はまだまだ終つていない。この闘争が終りを上げるのは、階級というものが最終的に完全に滅亡したときのことである。したがつて、われわれの社会主義の思想教育活動は、一度で永遠に片の付くものではなく、かならず階級闘争の起伏にしたがつて、ときには理論、政策の教育をすこしずつ経常的にすすめなければならぬし、ときには大規模な整風運動や思想改造運動をおこなわなければならない。社会主義思想の陣地は、教育と闘争を通じて一步一步と占領し、拡

大してゆくものである。革命家たるものは誰しも、思想の領域でたえず革命をおこなつてゆかねばならない。十年來われわれがおこなつてきたところの三反運動、抗米援朝運動、党の過渡期における総路線についての学習運動、反革命肅清運動、整風運動、反右派闘争、農業の協同化を中心とした社会主義の大弁論、および人民公社、大躍進を中心とした党の社会主義建設の総路線の学習などは、きわめて効果的な政治、思想工作である。もちろん、われわれはこれらの成果にけつして満足はしていないし、また、これだけの成果をおさめたからには、今後の政治、思想戦線の任務を軽減してもいいなどはけつして思っていない。

政治、思想戦線上の闘いをすすめるにあたつて、われわれは終始一貫、絶対多数の同志たちにとつては、主に教育と向上の問題だと考えている。わが軍の指揮員、戦闘員は、社会主義を心から愛し、だんことして社会主義のために闘い、どんな大きな試練にもたえうる人びとである。資本主義の道を固執し、意識的に社会主義に反対しているのは、軍隊内部にまぎれこんでいるきわめてわずかな階級的異分子にすぎない。しかしながら、わが軍の將兵の絶対多数が農民出身であるために、一部の同志が、ときには小生産者の一時的、局部的な利益から問題を考

え、社会主義の変革中の一部の問題をはつきりと認識できないこともまぬかれがたいし、また少数の同志が社会主義革命の激浪のなかで、ブルジョアシー、小ブルジョアシー、とくに富裕中農の思想的影響をうけ、しつかりとした立場を見失うこともまぬかれがたい。こうした状況は存在しているのであつて、もしそれが発展するままにまかせておくと、ブルジョア思想がわが軍の内部にはんらんすることになる。したがつて、われわれは片時といえども思想工作をゆるめるわけにはゆかない。こうした思想問題は、人民内部の矛盾に属する問題であつて、敵味方の矛盾にたいする方法、圧制や打撃をくわえる方法をとつてはならず、ただ民主的な方法、討論の方法、批判の方法、説得教育の方法によつて解決すべきである。

新しい歴史的な時期にあつては、軍隊の政治工作、思想工作はひじょうに重要であつて、ぜつたいにこれをおこなつてはならない。「政治工作はわが軍の生命線である」これは、わが軍の数十年の革命の実践のなかで証明されている真理である。毛沢東同志は、また「中国の農村における社会主義の高まり」の編集者のことばのなかで、さらに「政治工作は一切の経済工作の生命線である。社会経済制度の根本的変革が発生している時期においては、ことにそう

である」と指摘している。この言葉は、当然おなじように軍隊にも適用される。わが軍の現代化の過程で、われわれはもちろん装備の改善、技術の掌握に十分注意を払わねばならないが、しかしかならずもう一つの面、しかも主導的な面にも注意を払わねばならない。つまり、政治を忘れてはならず、政治を強調しなければならぬということである。われわれの軍隊は、政治に奉仕し、社会主義に奉仕する軍隊であり、われわれは政治によつて軍事を指導し、政治によつて日常活動を指導しなければならない。政治こそもつとも根本的なものであり、政治工作、思想工作をりつばにやらなければ、その他のすべての工作は何一つ談ずることはできない。十年らいのわが軍の各工作が大きな成果をおさめたのは、なによりも社会主義の思想が花をひらき、実を結んだ結果にはかならない。マルクス・レーニン主義の理論教育を強化し、社会主義と党の総路線の教育を強化し、またこれらの教育を当面の革命闘争の実践、軍隊の成員の思想的变化と密接に結びつけ、たえず人びとの脳裏からブルジョア思想と小ブルジョア思想の残りがすをとりのぞき、社会主義の自覚を高めることは、今後もおわが軍の建設にあつての基本的な任務である。

人民大衆の革命闘争のなから生まれ、成長してきた中国人民解放軍は、ゆらい革命的大衆運動を自己の事業と見なしてきた。人民大衆が立ちあがつて旧い制度をうちこわし、社会と自然の面貌をつくりかえるため苦難にみちた闘いをすすめているときには、人民解放軍はつねに人民とがつしり一体となり、熱情にあふれて人民に大きな支援をあたえ、またみずからも直接に烈々たる大衆運動に身を投じて、最もきびしく最もすぐれた鍛練をうけてきた。敵対勢力が革命的大衆運動をはばみ、破壊しようとしたときには、人民解放軍はいつも身を挺して大衆を支持してきた。同時に、怒濤のような大衆運動はこれまた、つねに軍隊を大いに励まし、教育し、軍隊の政治的自覚をきたえ、高める革命のつぼとなつた。人民解放軍がきわめて困難な条件のもとで、装備の点でも力関係の点でも自己よりはるかに優勢な敵をうちやぶることができたのは、人民解放軍が人民大衆と血肉のつながりをもつ兵力だったからである。人民大衆が十分に動員されたならば、一敵を溺死させてしまふ洋々たる大海となり、武器その他の面での

欠陥をおぎなう補助条件となり、戦争のあらゆる困難を克服する前提となる」⑩のである。人民解放軍と人民大衆のこうした関係は、人民解放軍の本質とその建軍の本旨によつて決定されるものである。民主主義革命の時期にもそうであるし、社会主義革命の時期にもそうである。一九四九年三月、民主主義革命がすでに決定的な勝利を勝ちとり、あらたな社会主義革命の段階が目前にせまつたとき、毛沢東同志は、党の第七期中央委員会第二回総会の席上、いちはやく、われわれにたいして、「人民解放軍は永遠に戦闘部隊であり、同時にまた工作隊でもある」という偉大なよびかけをおこなつた。

全国の大陸が解放されたのち、わが軍の任務は作戦を主としていた段階から訓練を主とする段階へ移り、農村に分散していた段階から兵営に集中する段階に移つたので、軍隊と人民大衆が直接に接触する機会はすくなくなつた。当時、一部の同志のあいだには、経済建設と国防建設では担当する分野がことなるし、軍隊の訓練の任務は重く、軍隊は人民大衆の革命闘争と國家の経済建設にくわわらなくてもよいし、「地方」の問題にかかわらなくてもよい、という考え方をするものもいた。われわれは、こうした誤つた見方を遅滞なく批判し、これを断固とし

て是正し、わが軍が戦争もすれば、大衆活動もするし、生産にもくわわるといふ三大任務を長期にわたつてになつてきたこの光榮ある伝統をひきつづき発揚するとともに、社会主義的改造と社会主義建設のそれぞれ異なる時期における必要にもとづいて、各方面から大衆運動を支持する活動をくりひろげてきた。およそこの十年來の大きな社会変革や大きな大衆運動であつて、人民解放軍がこれを積極的に支持し、熱情的にこれに参加しなかつたものは一つもない。わが國の社会主義事業を極度に敵視している帝國主義の代弁者は、わが軍が人民大衆の革命運動に積極的に参加していることを「武力弾圧」だなどといつてはいるが、これはまことにでたらめきわまる言い種である。その実、ほかならぬ帝國主義の旦那方こそ日ごろ彼らの反動的な武力をもちいて、国内の人民といつさいの植民地人民の民族民主運動に横暴な弾圧をくわえていたのである。わが軍にたいするかれらのこのようなデマや中傷は、かれらが、われわれの強大な人民解放軍と六億余の人民との親密な團結をおそれており、自己の醜行を嘘八百でおおいかくそうとしていることを物語るにすぎない。

一九五八年以來の國民經濟大躍進と人民公社化の高まりは、党の社会主義建設の総路線の無

限の光をはつきりと示した。党の総路線はいちはやく大衆に掌握されて巨大な物質的力となり、史上に前例を見ないすさまじい大衆運動をかたちづくつた。このような偉大な大衆運動には、いかなる態度をとるべきであろうか？ 運動のただなかへ身を投じ、熱情をかたむけて大衆を支持するか？ それとも運動の外に立つて、あれこれと大衆を批判するか？ あるいはまた運動の真向に立ちはだかつて、大衆に反対するか？ 右翼日和見主義者とは正反対に、党と毛沢東同志に長いあいだ教えみちびかれ、人民とがつしり一体となつた人民解放軍は、断固としてこの偉大な大衆運動を支持した。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、大躍進と人民公社化運動が客観的な物質的基礎をもつ、わが国の歴史発展の必然的産物であることを、みずからの体験をつうじてよく知っている。党と毛沢東同志は大衆の意志と創意をあつめて、この偉大な運動の発展を促進した。大躍進と人民公社化運動のなかで、広はんな勤労者がかくも強い革命の熱情と社会主義の自覚をしめたのは、勤労者が一日も早く、わが国経済のたちおくれた状態をあらため、「ひとつには経済的に立ちおくれ、ふたつには文化的に空白にちかい」状態からぬけだし、わが国を高度に発達した現代工業、現代農業、現代科学・文化をもつ偉大な社会主義

義國にきずきあげようと決心しているからにはかならない。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、人民大衆のこのけだかい願いとちからづよい熱情をよく理解しており、かれらは人民大衆と心と心をふれあい、人民大衆の偉大な意志に深い感銘をうけている。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、帝国主義者とその手先がわが国の社会主義建設にたいし虎視眈々としてつねに破壊の機をうかがっていること、したがって、われわれはなおさら、たえず警戒心をたかめ、断固として党の社会主義建設の総路線を貫徹し、これを守り、高速度にわが国の国民経済を發展させなければならぬということをよく知っている。国民経済が高速度に發展してはじめて、わが国の国防の現代化をつよめることができ、わが国の人民の幸福と安楽を保障することができるのである。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、大衆運動をおそれるのは右翼日和見主義者、ブルジョア革命家の本性であること、こうした連中は運動に直面してもつばらあらをさがしまわり、それを大げさに言いたてること、その目的はたるんだ、意気沮喪した、愚痴っぽい、悲観的な気分をまさちらすことにあり、成果を否定し、党の総路線を否定することにあるということをよく知っている。われわれは、かならず思いきつて大衆をたちあがらせ、社会主義革命を最後

までおしすすめ、社会主義建設の仕事をすさまじい勢いですすめるなければならない。大衆運動を欲せず、例外的、局部的、一時的な、しかも速かに克服された一部の欠点をとりあげて大衆運動に反対することは、とりもなおさず、前進しないこと、革命しないことを意味する。人民解放軍の指揮員、戦闘員が、みずから大衆運動に参加してまず最初に見てとるのは、いく億人民の天をつく意気込みと偉大な成果である。これこそ、大衆運動の主流であり本質である。人民公社についていうなら、われわれは、人民公社というこの新しく生まれた社会組織の旺盛な生命力と比類ない優越性、国家の経済、文化の発展と人民の生活の向上のために果しているその大きな役割を見てとつていざばかりではない。われわれはまた、行政と社務が一体となり、工業、農業、商業、文化・教育、軍事が結合している人民公社は、いったん帝国主義がわが国に侵略戦争をしかけて来たときには、全民皆兵を実現して前線を支援し、祖国を防衛し、侵略者を破滅のふちにつきおとすのに最も都合のよい強大な後盾でもあることを知っている。社会主義の進展を推進すると同時に国防建設を推進する人民大衆のこの革命的な創舉にたいしては、真に祖国の富強に関心をもつ人なら、どうして、心からこれを擁護し、熱情をこめてほめ

たたえずにいられるだろうか？ もちろん、人民公社化運動のような大規模の、急速に発展する大衆的革命運動では、経験の不足から、一部の欠点が生じるのは、避けられないことである。しかし、われわれが特筆すべきことは、決してあれこれの一部の欠点が生じたことではなく、成果にくらべて欠点がかくも少なく、欠点の克服がかくも早かつたことであり、党と毛沢東同志の大衆運動を指導する手ざわがかくもすぐれ、かくも敬服と学習に値することである。

前述のように、人民解放軍は政治闘争の道具であるから、革命軍人は政治から離脱してはならず、政治を重視し、政治の学習にとめるべきである。そして、大衆運動、社会闘争の実践こそ、豊富な政治である。われわれはたえず人民大衆との接触をたもち、革命的な大衆運動のなかから養分をくみとり、自己をたかめなければならぬ。軍隊の指揮員、戦闘員は、積極的、主動的に国家の建設と大衆運動に参加することによつて、眼界をひろげ、知識をゆたかにし、大衆観点と労働観点をつよめることができ、ゆたかな実践と結びつけて理論上、政策上の水準をたかめることができ、また地方の幹部から階級分析の方法と生き生きとした大衆路線の活動方法をまなぶことができる。経験が一再ならず証明しているように、軍隊が大衆運動に参加す

ることは、広はんな指揮員、戦闘員にとつて、もつとも生き生きとした、もつとも豊富な、もつとも意義深い政治課の課程である。この点を重視している部隊では、きまつて幹部と兵士の政治、思想の進歩がわりにはやいが、この点を軽視している部隊では、きまつて幹部と兵士の政治的関心が高まらず、眼界がせまく、思想が情勢に追いつけないでいる。数年前、一部の同志は、大衆運動に参加し、人民の生産をたすけることを余計な負担だと考え、軍事教練だけが訓練であつて、社会主義の闘争の実践にくわわることは訓練になるどころか、かえつて訓練のさまたげになり、「得より損の方が大きい」と見なしていた。こうした見方は、全く誤つてい

四

技術装備の不断の改善、技術の掌握、技術の向上が以前よりもいつそう重要となつてい

が軍の現代化軍隊建設の段階でも、人間はやはり決定的な要因であろうか？ 一部の同志のあいだには、つぎのような見方がある。現代の戦争と以前の戦争とはちがう。以前わが軍は兵器

装備が劣つていたので、戦争に勝つためには主として人間にたより、人間の勇敢さと英知にたよるはなかつた。だが、現代の戦争でたかつているのは、技術であり、鋼鉄であり、機械であつて、こうしたものを前にしては人間の役割も第二的な地位にしりぞかねばならない。こういう見方をする人びとは、機械だけを重く見るとともに、革命的な兵士を革命的な創造的精神のない、機械的な人間にかえてしまおうとするのである。われわれは、こうした人びとと正反対である。われわれは、装備や技術ももとより重要ではあるが、しかし、人間の要因はさらに重要である、と考える。技術も人間が掌握するものである。人間と物質は統一さるべきであり、しかも、人間が主導的な要因とならねばならない。われわれがつねに考慮しているのは、いかにして一層よくいつさいの積極的な要因を動員し、將兵大衆の主動性を十分に發揮させるかという問題である。十年來、われわれが建军工作をすすめるにあつて、將校と兵士の関係、上級と下級の関係を親密なものとし、いつさいの活動のなかで大衆路線をつらぬくことにとくに注意をはらつてきたのは、つまりこうした意味あいがあるのである。

中国人民解放軍は、まったく新しい型の人民の軍隊である。この軍隊は、封建的な傭兵制軍

隊の軍閥制度をうちこわし、民主、団結の制度をうちたてることから建設されはじめた軍隊である。わが軍は、もつとも權威のある指揮制度をもつとともに、革命の大家庭のなかでの將兵一致、上下一致の親密な関係をもっている。わが軍は、集中度のもつともたかい、紀律のもつともきびしい戦闘組織であるとともに、民主生活にもつともめぐまれた隊伍でもある。わが軍の成員はすべて、上から下への統一的な指令によつて事をおこなうとともに、各種の活動のなかでつねに大衆路線を歩んでいる。將校と兵士、集中と民主、統一的な指令と大衆路線、これらはまったく矛盾した事が見えるが、われわれの軍隊では、きわめてみごとに統一されている。これは、中国共産党と毛沢東同志が長期にわたつて中国人民解放軍のなかにうちたててきたマルクス・レーニン主義の伝統である。十年来、わが軍の兵器装備、組織制度がいかにかわつても、われわれは、つねにこの光榮ある伝統を堅持し、たえまなくこれを發展させてきたのである。

毛沢東同志は、將兵関係がうまくいかどうかは技術や方法の問題ではなく、態度の問題であり、兵士の人格を尊重するかどうかという根本的な態度の問題である、と早くから指摘して

いる。われわれは、ゆらい、將校と兵士は革命の隊伍のなかでの分担がちがうだけであつて、政治的にも、人格的にも上下貴賤の区別はない、と考へてきた。將校は、兵士大衆のうえにぬきんでた特殊な人物ではない。將校が兵士をいたわり、兵士が將校をやまい、將兵がたがいに尊重しあつてこそ、平等・友愛の関係をうちたて、將兵一致の目的を達することができる。こうした一致があれば、無限の戦闘力がうみだされるのである。一九五八年、わが軍は、毛沢東同志のよびかけにこたえ、將校が毎年一カ月ずつ中隊へおりて兵士となる制度を実施しはじめた。この制度は、各军区、各軍種・兵種の司令員、政治委員などの將軍の同志たちがまず率先して実施したものである。中隊へおりて兵士となつた將校は、兵士とともに訓練をうけ、ともに労働し、ともに寢起きし、ともに娛樂に興じ、班長の指揮にしたがい、自分のわからないところは小学生のように班長や兵士に教をこうている。かれらは、すぐ兵士たちのなかにとけこみ、兵士たちの親しい友になつた。各部隊が一樣につたえているように、將校が中隊へおりて兵士となつたところでは、きまつて政治の雰囲気がつりわけ強く、士氣がつりわけ高い。將校が率先して模範をしめすので、兵士の將校にたいするいたわりようも至れりつくせりであ

り、なにごとにつけても気をくばり、できるだけ將校の肉體労働を軽くしようとしている。將校が兵士になることは、將校じしんにとつても大きなプラスになる。將校は、労働をつうじ、兵士とつきあつてゆくなかで、平等に人に接する共産主義的風格を身につけ、官僚主義的作風が生ずるのをふせぎ、大衆観点をつよめることができ、また、兵士の角度から指導機關の指示、決定を点検し、指導の作風を点検することができる。將校が兵士になる制度は、実施してから一年にしかないが、しかし、これによつて、わが軍の將校と兵士がさらに一体となり、心と心をふれあつて無敵の力となるであらうことは、すでに見てとることができ、

毛沢東同志はゆらい、民主生活の発揚をさわめて重視し、この面で多くの指示をおこなつてきた。毛沢東同志は、軍隊は一定の程度の民主を実施しなければならない、そうすれば、將兵一致の目的が達せられ、軍隊の戦闘力がつよまる、といつた。毛沢東同志は、どの部隊でも幹部擁護、兵士愛護の運動をおこし、幹部に兵士を愛護するようよびかけるとともに、兵士に幹部を擁護するようよびかけ、相互の欠点と誤りは表面に出してはつきりと指摘し、すみやかに改めるようにすべきである、そうすれば、内部の團結をよくする目的が達せられる、といつ

た。毛沢東同志はまた、人民内部の矛盾を正しく処理する問題は、とりもなおさず、わが党が日頃から説いている大衆路線をあゆむ問題である、といつた。毛沢東同志の指示したこのよう民主的な活動方法、大衆路線の活動方法は、まず人民の軍隊のなかで実行され、ゆたかな経験が積みあげられたものである。中国人民解放軍では、兵士は管理され、指導されるものであると同時に、管理に参加する権利をもち、活動にあつて案を出し、方法を考える。幹部は管理し、指導するものであると同時に、大衆の監督を受け、活動にあつて大衆にたより、大衆を動員する。矛盾につきあたれば、民主的な説得と教育の方法をとり、團結——批判——團結の公式にもとづいて調整する。こうして、團結がつよめられ、士気がたかめられ、紀律がかためられ、広はんな將兵の積極性、創意性が発揚されるのである。十年来、われわれは、この面で大きな発展をとげてきた。中国人民志願軍は、民主主義を高度に現代化した抗美援朝戦争に運用する面でもすぐれた成果をあげた。大きな役割をはたした「地下の万里の長城」——抗道工事は、とりもなおさず上級と下級が一体となり、大衆の知恵をあつめて生みだしたものである。われわれは、また、民主主義を現代的な軍事訓練にとり入れた。その結果、大衆路線を立

派にあゆんだ部隊では、すべて訓練の成績がすぐれていた。一九五八年に「一つの専門に精通するとともに多方面の技能を掌握し、一人一人の兵士が多くの面で役立つ」ことを目標とした、軍事技術掌握の大量運動がおこった。技術装備の改善を中心とする技術革新運動も広はんにくりひろげられ、多くの合理化提案と価値のある発明、創案が次々とおこなわれた。このほか、整風運動らしい全国にわたって広くおこなわれた、思う存分に意見を発表し、大いに論争し、大字報を出すという民主的な形式も、おなじく軍隊で採用された。このよう形式は、大衆を動員して自己教育をおこない、内部の矛盾を解決し、大衆の主動性を発揚し、大衆の責任感を強めるのにもつとも適している。

われわれの実行する民主は、集中的指導のもとにおける民主であり、指導のもとで実行されるものである。われわれは、いかなる時期にも、無政府状態と平均主義に反対する。われわれは軍隊のなかで民主生活をおしひろめるばあい、いついかなるところでも、軍隊の特徴を考慮し、これに配慮をくわえる。われわれは、民主を手段と見なしている。団結をつよめ、規律をかため、戦闘力をたかめることこそ、われわれの目的である。わが軍の將兵は、一致した政治

目標をもつており、自己の団結をかため、敵をうちやぶる共通の思想的土台をもっている。だから、わが軍の民主生活は、一貫して、健全な道にそつて発展することができるのである。われわれは、あくまで大衆の大多数を信頼すべきである。下心のあるものが民主を利用してわれわれの軍隊を破壊しようとしても、各級の指導がこれを許さないばかりでなく、広はんな指揮員、戦闘員も絶対にこれを放置しないであらう。

五

軍隊にたいする党の絶対的指導と、わが軍の広はんな幹部の確固とした党性は、わが国社会主義建設の国防事業が勝利をおさめる最大の保証である。われわれが痛感しているのは、ここ十年來の国防建設と軍事闘争の面で、過去の戦争の時期とおなじく、われわれが重要な鍵となる問題に出あうたびに党と毛沢東同志のところから正しい方向を見つけだし、これを立派に解決してきたことである。たとえば、現代的な革命軍を建設する方針を決定したこと、国防建設と國家の經濟建設との關係を正しく処理したこと、抗美援朝の英明な方針を決定し、正しい職

略指導をおこなったこと、台湾解放の闘争と福建前線の作戦における各項の政策を決定したにと、強大な常備部隊、特種技術部隊、民兵武装を結合したこと、全民皆兵の実現を準備する方針を提出したことなど、これらはどれ一つとして党と毛沢東同志による直接の指導の結果でないものはない。

毛沢東同志は「戦争と戦略問題」と題する文章のなかで、「国家学説に関するマルクス主義の観点からみれば、軍隊は国家権力の主要な構成要素である。国家権力を奪取しようとし、またそれを保持しようとするものは、強大な軍隊をもたなければならない」④とのべている。毛沢東同志はまた、おなじ文章のなかで「共産党員は個人の兵権を争わない（決して争ってはならないし、二度と張国燾にならつてはならない）が、しかし、党の兵権を獲得しなければならぬのであつて、武器が党を指揮することを決してゆるさない」⑤ともものべている。中国人民解放軍は、建国後十年來というもの、戦争の時期と同様に、終始一貫して党と毛沢東同志の指導をだんこ擁護し、党の路線と政策を貫徹するもつとも忠実な頼るべき道具となり、党の指導する

人民民主主義独裁と社会主義の事業のもつとも確固たる守り手となつた。したがつて、人民大衆はつねに、人民解放軍にきわめて大きな榮譽をあたえ、これを心から愛してきたし、逆に帝國主義者とさまざまな反動派はつねに、党と毛沢東同志にたいする人民解放軍の無限の忠誠を彼らにとつてもつとも不利な事がらとみなしてきた。われわれは軍隊に勤務する幹部と共産党員は、たえまなく敵の陰謀を警戒しなければならず、武装した敵の侵犯を警戒する一方、さまざまな「砂糖でくるんだ砲弾」や内部からの破壊をも警戒しなければならない。軍隊に勤務する幹部と共産党員は、つねにいささかのゆるみもなく人民の利益、社会主義の事業、党の指導をまもり、これに敵のいかなる襲撃や破壊をも蒙らせないというとくに重要な責任をになつてゐる。この責任は、なによりもまず、軍隊の幹部と共産党員が謙虚に学び、自己を改造し、たかい政治意識とつよい党性をそなえることを要求している。

党性とは抽象的なものではない。軍隊に勤務する共産党員と幹部についていえば、つよい党性は、二いついかなる状況のもとでもあくまで党の団結をまもり、一意専心党の綱領と路線のために奮闘するところにあらわれるのでなければならない。このためには、政治情勢と政策、路

線など方向決定のための諸問題にたえず関心をよせ、注意をはらうとともに、しつかりとした立場にたち、是非を見きわめ、重大な是非善悪の問題に直面してぐらついたり、方向を見うしなつたりしないようにしなければならぬ。個人と党の關係は、かならず正しく位置づけなければならぬ。党には絶対に服従しなければならず、個人的な野心をいだいてはならない。紀律をきびしく守り、いかなるばあいにも党の團結を重んじなければならず、党にかくれて自分勝手なことをやつてはならない。公明正大で、どこまでも誠実でなければならず、偽善的な手を使つて名譽をえようとしてはならない。謙虚でなければならず、おごりたかぶつてはならない。批判と教育を勇敢にうけいれ、いつさいの誤つた傾向と闘わねばならず、批判をこぼんだり、誤りを固執したりしてはならない。要するに、個人主義はいつさいの悪の根源である。これがすこしでも頭をもたげれば、ただちにきつぱりと批判し、克服につとめるべきであつて、いささかも見過ごしてはならない。わが軍の広はん幹部の党性は、党と毛沢東同志にたえず教導かれ、たえず強まつている。われわれに党性のつよい多くの幹部がいるからこそ、軍隊にたいする党の指導がつらぬかれ、このように偉大な成果をあげることができるのである。

党と毛沢東同志が一再ならず指摘したように、党性をつよめる根本問題は、プロレタリアートの弁証法的唯物論の世界観をもつて、人びとの頭腦のなかにあるブルジョアジーの観念論的世界観にとつてかわらせることである。このためには、長期にわたつてなみなみならぬ努力をつみかさねなければならぬ。共産黨員たるものは、もし自己の世界観を徹底的に改造せず、ブルジョアジーの世界観で問題を觀察し、処理するならば、かならず誤りをおかすことになる。世界観の改造をはなれては、党性をりつばに鍛えることはできない。マルクス・レーニン主義の理論と毛沢東同志の著作を真剣に学び、プロレタリアートの世界観を確立することは、わが軍のすべての幹部と共産黨員がかならずつくさなければならぬ義務である。

われわれが十年來の国家建設と軍隊建設のかがやかしい成果を視つてるとき、わが國の社会主義建設はひきつづき高速度で躍進しており、國際情勢も平和、民主、社会主義にいつそう有利な方向へと發展している。偉大なソ連とその他の社会主義兄弟諸國はすべて繁榮の氣運にみちあふれ、全世界の反植民主義的解放闘争は怒濤のように發展しているが、帝國主義陣營の内部は矛盾にみち、一片の暗雲におおわれている。「東風が西風を圧倒している」「敵は日」

日と腐れはててゆき、われわれは日一日とよくなっている」という毛沢東同志のこの英明な断定は、ますます多くの事実によつて立証されている。国際緊張をやわらげ、世界平和をうちかためる可能性は日まじに増大している。われわれは、断固として、平和のために奮闘すべきである。もとより、アメリカのひとにぎりの好戦分子はひきつづき冷戦をつよめようとたくらみ、つきつぎと事件をひきおこして社会主義陣営と民族独立運動に挑発をおこなっているし、またいちぶの帝国主義分子はいま中華人民共和国に反対する悪意にみちた煽動をたえまなく行なっているのだから、われわれはこれに十分な警戒心をはらわなければならないが、しかし、われわれは新生の力がかならず腐敗した力にうちかつかつことを確信している。世界平和、民主、社会主義の事業は、かならず、ひきつづき大きな足取りで躍進するであろう。国内情勢たると国際情勢たるとをとわず、現在は光明にみちみちている。六億五千万の中国人民は、十年來のわが祖国のかがやかしい成果と党の第八期中央委員会第八回総会の戦闘的なよびかけに励まされ、偉大な中国共産党と中国各族人民の偉大な指導者毛沢東同志の指導のもとに、かならず社会主義建設の事業のなかで新たな、いつそう輝かしい勝利をかちとるであろう！ 中国人民解放軍

は、社会主義への勝利の進軍の時期にあつても、かならずその戦闘部署で、党からゆだねられたすべての任務を断固と遂行し、全国人民の期待にりつばにこたえるであろう！ われわれはひきつづき党の総路線と毛沢東の軍事思想の赤旗を高くかかげ、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、国防の強化、台湾の解放、平和の擁護、祖国の建設のため勇みたつて前進しようではないか！

① 劉少奇「第八期全国代表大会第三次會議にたいする中国共産党中央委員会の活動報告」(中国語版) 人民出版社 二九ページ

② 中共中央公序編「中国の農村における社会主義の高まり」(中国語版) 上巻 人民出版社 一二三ページ

③ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二卷 四七九ページ

④ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二卷 五三五ページ

⑤ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二卷 五三四―五三三ページ

派にあゆんだ部隊では、すべて訓練の成績がすぐれていた。一九五八年に「一つの専門に精通するとともに多方面の技能を掌握し、一人一人の兵士が多くの面で役立つ」ことを目標とした、軍事技術掌握の大量運動がおこった。技術装備の改善を中心とする技術革新運動も広はんにくりひろげられ、多くの合理化提案と価値のある発明、創案が次々とおこなわれた。このほか、整風運動いらい全国にわたって広くおこなわれた、思う存分に意見を発表し、大いに論争し、大字報を出すという民主的な形式も、おなじく軍隊で採用された。このよう形式は、大衆を動員して自己教育をおこない、内部の矛盾を解決し、大衆の主動性を発揚し、大衆の責任感を強めるのにもつとも適している。

われわれの実行する民主は、集中的指導のもとにおける民主であり、指導のもとで実行されるものである。われわれは、いかなる時期にも、無政府状態と平均主義に反対する。われわれは軍隊のなかで民主生活をおしひろめるばあい、いついかなるころでも、軍隊の特徴を考慮し、これに配慮をくわえる。われわれは、民主を手段と見なしている。団結をつよめ、紀律をかため、戦闘力をたかめることこそ、われわれの目的である。わが軍の將兵は、一教した政治

目標をもつており、自己の団結をかため、敵をうちやぶる共通の思想的土台をもつている。だから、わが軍の民主生活は、一貫して、健全な道にそつて発展することができるのである。われわれは、あくまで大衆の大多数を信頼すべきである。下心のあるものが民主を利用してわれわれの軍隊を破壊しようとしても、各級の指導がこれを許さないばかりでなく、広はんな指揮員、戦闘員も絶対にこれを放置しないであろう。

五

軍隊にたいする党の絶対的指導と、わが軍の広はんな幹部の確固とした党性は、わが国社会主義建設の国防事業が勝利をおさめる最大の保証である。われわれが痛感しているのは、ここ十年来の国防建設と軍事闘争の面で、過去の戦争の時期とおなじく、われわれが重要な鍵となる問題に出あうたびに党と毛沢東同志のところから正しい方向を見つけだし、これを立派に解決してきたことである。たとえば、現代的な革命軍を建設する方針を確定したこと、国防建設と国家の経済建設との関係を正しく処理したこと、抗米援朝の英明な方針を決定し、正しい職

略指導をおこなったこと、台湾解放の闘争と福建前線の作戦における各項の政策を決定したこと、強大な常備部隊、特種技術部隊、民兵武装を結合したこと、全民皆兵の実現を準備する方針を提出したことなど、これらはどれ一つとして党と毛沢東同志による直接の指導の結果でないものはない。

毛沢東同志は「戦争と戦略問題」と題する文章のなかで、「国家学説に関するマルクス主義の観点からみれば、軍隊は国家権力の主要な構成要素である。国家権力を奪取しようとし、またそれを保持しようとするものは、強大な軍隊をもたなければならぬ」④とのべている。毛沢東同志はまた、おなじ文章のなかで「共産党員は個人の兵権を争わない（決して争つてはならないし、二度と張國燾にならつてはならない）」が、しかし、党の兵権を獲得しなければならぬのであつて、武器が党を指揮することを決してゆるさない⑤ともものべている。中国人民解放軍は、建国後十年來というもの、戦争の時期と同様に、終始一貫して党と毛沢東同志の指導をだんこ擁護し、党の路線と政策を貫徹するもつとも忠実な頼るべき道具となり、党の指導する

人民民主主義独裁と社会主義の事業のもつとも確固たる守り手となつた。したがつて、人民大衆はつねに、人民解放軍にきわめて大きな榮譽をあたえ、これを心から愛してきたし、逆に帝國主義者とさまざまな反動派はつねに、党と毛沢東同志にたいする人民解放軍の無限の忠誠を彼らにとつてもつとも不利な事がらとみなしてきた。われわれは軍隊に勤務する幹部と共産党員は、たえまなく敵の陰謀を警戒しなければならず、武装した敵の侵犯を警戒する一方、さまざまな「砂糖でくるんだ砲弾」や内部からの破壊をも警戒しなければならぬ。軍隊に勤務する幹部と共産党員は、つねにいささかのゆるみもなく人民の利益、社会主義の事業、党の指導をまもり、これに敵のいかなる襲撃や破壊をも蒙らせないというとくに重要な責任をになつてゐる。この責任は、なによりもまず、軍隊の幹部と共産党員が謙虚に学び、自己を改造し、たかい政治意識とつよい党性をそなえることを要求している。

党性とは抽象的なものではない。軍隊に勤務する共産党員と幹部についていえば、つよい党性は、いついかなる状況のもとでもあくまで党の団結をまもり、一意専心党の綱領と路線のために奮闘するところにあらわれるのでなければならぬ。このためには、政治情勢、政策、路

線など方向決定のための諸問題にたえず関心をよせ、注意をはらうとともに、しつかりとした立場にたち、是非を見きわめ、重大な是非善悪の問題に直面してぐらいついたり、方向を見うしなったりしないようにしなければならない。個人と党の関係は、かならず正しく位置づけなければならない。党には絶対に服従しなければならない。個人的な野心をいだいてはならない。紀律をきびしく守り、いかなるばいにも党の団結を重んじなければならない。党にかくれて自分勝手なことをやつてはならない。公明正大で、どこまでも誠実でなければならない。偽善的な手を使って名譽をえようとしてはならない。謙虚でなければならない。おごりたかぶつてはならない。批判と教育を勇敢にうけいれ、いつさいの誤つた傾向と闘わねばならず、批判をこぼんだり、誤りを固執したりしてはならない。要するに、個人主義はいつさいの悪の根源である。これがすこしでも頭をもたげれば、ただちにきつぱりと批判し、克服につとめるべきであつて、いささかも見過ごしてはならない。わが軍の広はん幹部の党性は、党と毛沢東同志にたえず教え導かれ、たえず強まつている。われわれに党性のつよい多くの幹部がいるからこそ、軍隊にたいする党の指導がつらぬかれ、このように偉大な成果をあげることができるのである。

党と毛沢東同志が一再ならず指摘したように、党性をつよめる根本問題は、プロレタリアートの弁証法的唯物論の世界観をもつて、人びとの頭腦のなかにあるブルジョアシーの観念論的世界観にとつてかわらせることである。このためには、長期にわたつてなみなみならぬ努力をつみかさねなければならない。共産黨員たるものは、もし自己の世界観を徹底的に改造せず、ブルジョアシーの世界観で問題を観察し、処理するなら、かならず誤りをおかすことになる。世界観の改造をはなれては、党性をりつばに鍛えることはできない。マルクス・レーニン主義の理論と毛沢東同志の著作を真剣に学び、プロレタリアートの世界観を確立することは、わが軍のすべての幹部と共産黨員がかならずつくさなければならない義務である。

われわれが十年來の国家建設と軍隊建設のかがやかしい成果を祝つているとき、わが國の社会主義建設はひきつづき高速度で躍進しており、國際情勢も平和、民主、社会主義にいつそう有利な方向へと発展している。偉大なソ連とその他の社会主義兄弟諸國はすべて繁栄の氣運にみちあふれ、全世界の反植民主義的解放闘争は怒濤のように発展しているが、帝國主義陣營の内部は矛盾にみち、一片の暗雲におおわれている。「東風が西風を圧倒している」「敵は日一

日と腐れはててゆき、われわれは日一日とよくなっている」という毛沢東同志のこの英明な断定は、ますます多くの事実によつて立証されている。国際緊張をやわらげ、世界平和をうちかためる可能性は日ましに増大している。われわれは、断固として、平和のために奮闘すべきである。もとより、アメリカのひとにぎりの好戦分子はひきつづき冷戦をつよめようとたくらみ、つぎつぎと事件をひきおこして社会主義陣営と民族独立運動に挑発をおこなっているし、またいちぶの帝国主義分子はいま中華人民共和国に反対する悪意にみちた煽動をたえまなく行なっている。われわれはこれに十分な警戒心をはらわなければならないが、しかし、われわれは新生の力がかならず腐敗した力にうちかつことを確信している。世界平和、民主、社会主義の事業は、かならず、ひきつづき大きな足取りで躍進するであろう。国内情勢たると国際情勢たるとを問わず、現在は光明にみちみちている。六億五千万の中国人民は、十年來のわが祖国のかがやかしい成果と党の第八期中央委員会第八回総会の戦鬪的なよびかけに励まされ、偉大な中国共産党と中国各族人民の偉大な指導者毛沢東同志の指導のもとに、かならず社会主義建設の事業のなかで新たな、いつそう輝かしい勝利をかちとるであろう！ 中国人民解放軍

は、社会主義への勝利の進軍の時期にあつても、かならずその戦鬪部署で、党からゆだねられたすべての任務を断固と遂行し、全国人民の期待にりつばにこたえるであろう！ われわれはひきつづき党の総路線と毛沢東の軍事思想の赤旗を高くかかげ、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、国防の強化、台湾の解放、平和の擁護、祖国の建設のため勇みたつて前進しようではないか！

- ① 劉少奇「第八期全国代表大会第二次會議にたいする中国共産党中央委員会の活動報告」(中国語版) 人民出版社 二九ページ

- ② 中共中央弁公庁編「中国の農村における社会主義の高まり」(中国語版) 上巻 人民出版社 一一三ページ

- ③ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 四七九ページ

- ④ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 五三五ページ

- ⑤ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二卷 五三四—五三三ページ